

令和 6 年 1 1 月 7 日
保健医療福祉推進課

「在宅療養講演会・シンポジウム」の実施報告について

1. 主旨

ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の意義や在宅療養への理解を深めるとともに、住み慣れた地域で安心して最期を迎えるための「備え」について考える機会を提供するため、在宅療養講演会・シンポジウム「住み慣れた地域で最期まで安心して暮らし続けるために」を開催したので報告する。

2. 実施内容

（1）概要

日時：令和 6 年 9 月 2 8 日（土）午後 2 時から午後 4 時 3 0 分まで

会場：世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1 階研修室 C

内容：「住み慣れた地域で最期まで安心して暮らし続けるために」

【第 1 部】基調講演

講師：向山 晴子（世田谷保健所長）※ビデオ出演

【第 2 部】シンポジウム

シンポジスト：小原 正幸 氏（小原医院 院長）

芦田 雅子 氏（在宅療養を支えたご家族）

大原 昭江 氏（訪問看護ステーションけやき 看護師）

桑原 典江 氏（やさしい手下高井戸居宅介護支援事業所 管理者）

羽柴 若菜 氏（みずたま介護ステーション三軒茶屋 管理者）

【その他】ACP 啓発ポスター展示

出展：駒澤大学経営学部市場戦略学科 小野瀬拓 教授

小野瀬拓ゼミナール 作成ポスター

（2）参加者 80 人

3. 受講者アンケート結果

別紙のとおり

4. その他

動画配信 令和 6 年 1 1 月 1 日（金）から令和 7 年 3 月 3 1 日（月）まで（予定）

※世田谷区福祉人材育成・研修センターのホームページより公開

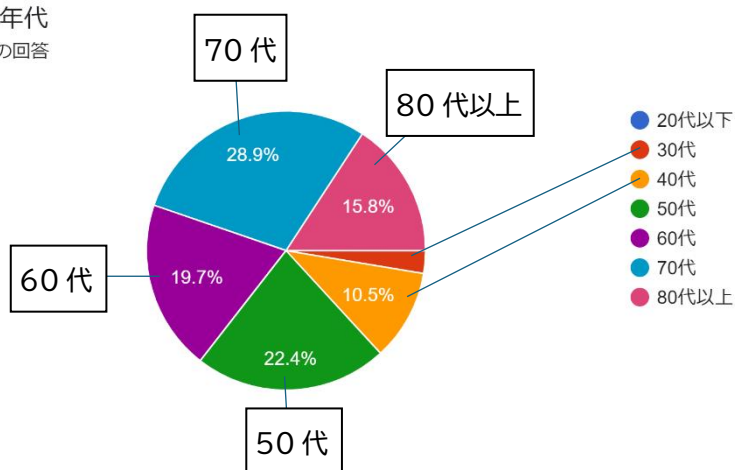
<在宅療養講演会・シンポジウムアンケート結果>

日時:令和6年9月28日(土)14時~16時30分

会場:世田谷区保健医療福祉総合プラザ1階 研修室C

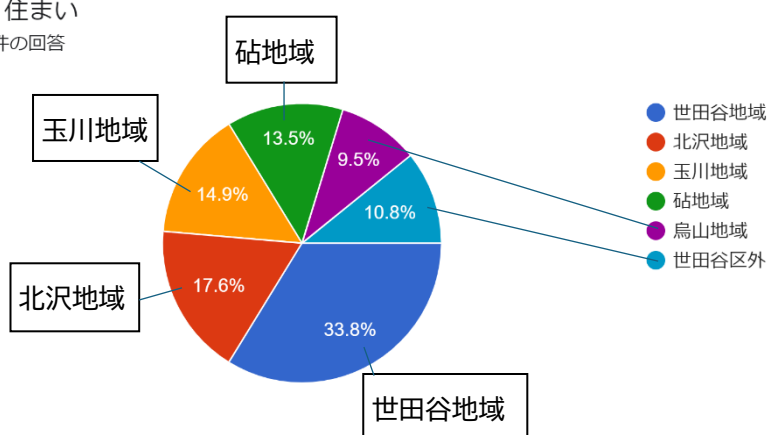
参加者:80名/回答:76名

1. 年代 76件の回答



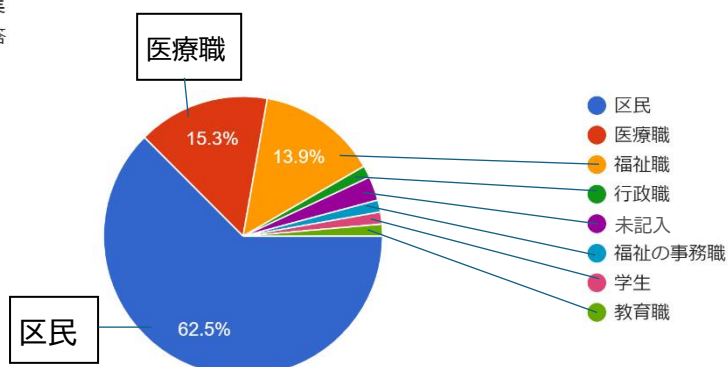
20代以下…0名
30代……2名
40代……8名
50代……17名
60代……15名
70代……22名
80代以上…12名

2. 住まい 74件の回答



世田谷地域…25名
北沢地域……13名
玉川地域……11名
砧地域……10名
烏山地域……7名
世田谷区外……8名

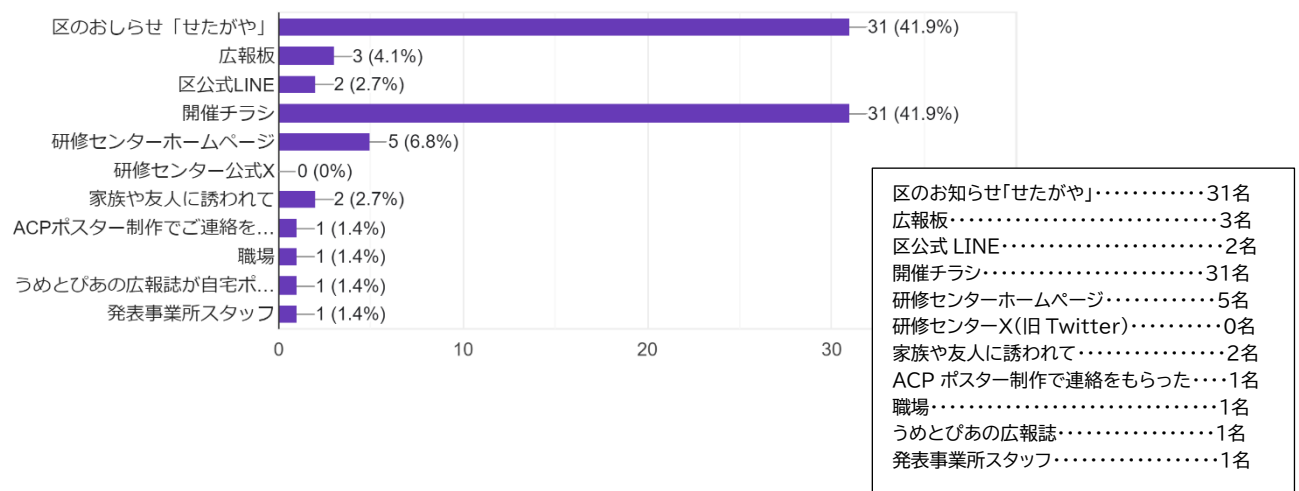
3. 職業 72件の回答



区民……………45名
医療職……………11名
福祉職……………10名
行政職……………1名
教育職……………1名
事務職……………1名
学生……………1名
未記入……………2名

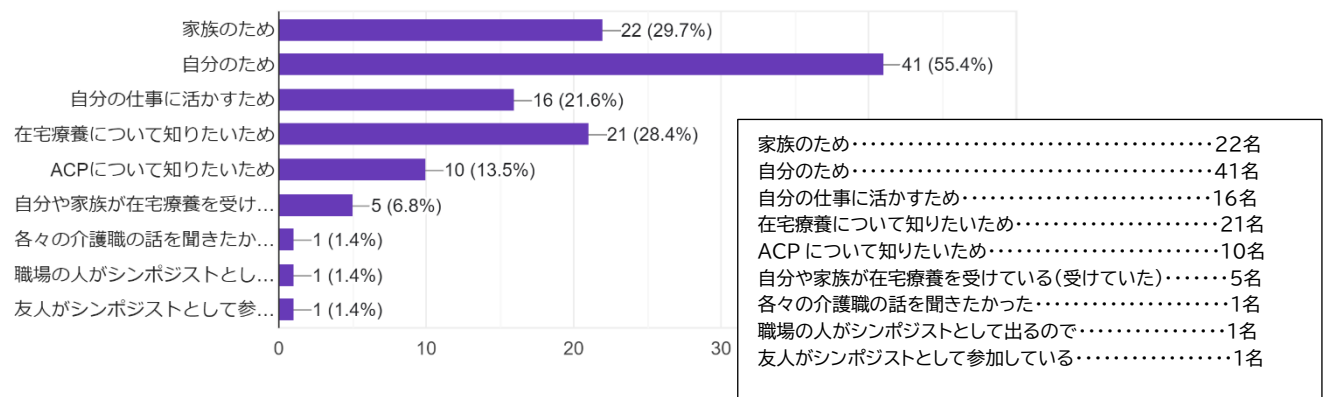
4. 在宅療養講演会・シンポジウムを知ったきっかけ

74 件の回答

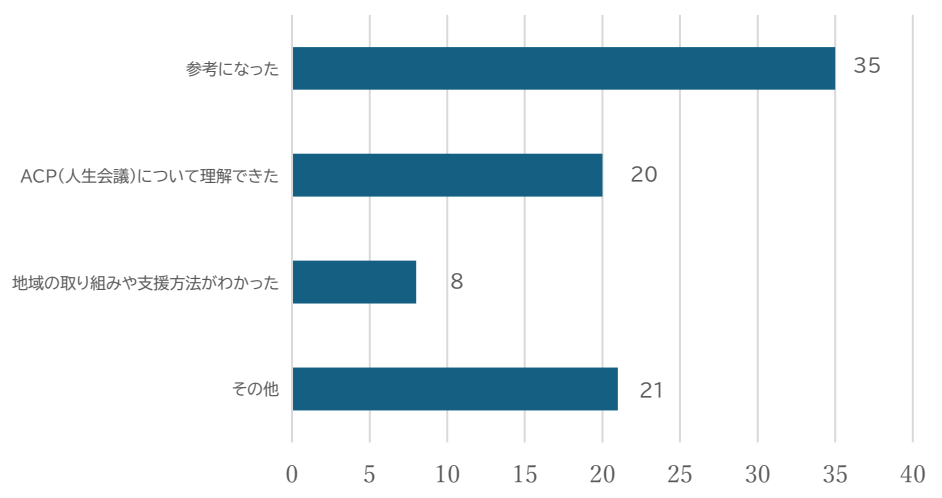


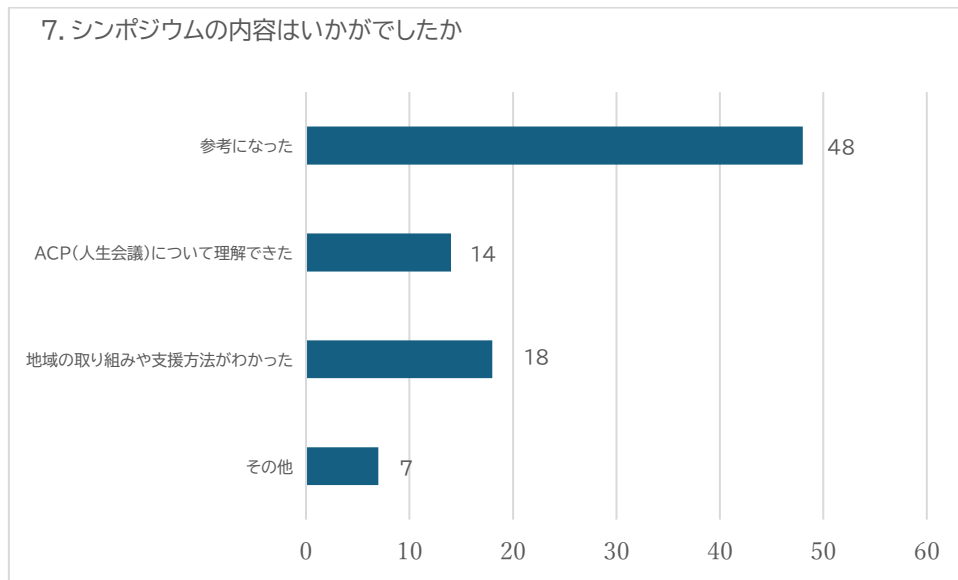
5. 参加した理由

74 件の回答



6. 基調講演の内容はいかがでしたか





8. 医療・福祉サービスを利用して、よかったこと、助かったことなどありましたらお書きください。

- ・ヘルパーさん達に相談でき、良かったと思っております。
- ・経済的に助かることが多い。
- ・手術担当医師の配慮により、退院後の介護体制を組み立ててもらったことは、心強く助かりました。
- ・ケアマネジャーとの出会い。
- ・母の介護を振り返って、今日、登壇されたような専門職の方々には当時「アベンジャーズ」のようだと思っていました。そばにいてもらって本当に助かっていました。
- ・母のことですが、地域包括支援センターに相談したことから、介護ベッド、歩行器等をすぐに手配してくれて、母にあったケアマネジャーを紹介していただき、入浴ができるデイサービスにつなげ配食サービス等々、ひとりで考え込んで進まないことを、プロのアドバイスをいただき大変助かりました。
- ・認知症の義母を2年在宅介護しました。その間、ケアマネさん、ホームヘルプ、デイサービス、ショートステイととてもお世話になりました。その後、施設に入所しました。家族だけでは、在宅を過ごすことができず感謝でいっぱいです。
- ・家族だけでは限界もあるので、相談できる人がいることは心強いと思います。

9. ご意見、ご感想、地域で安心して暮らし続けるために必要と思うことなど、ご自由にお書きください。

【30代】

- ・在宅療養を支えたご家族の話が印象的でした。言葉でどうするかを話すことの大切さを感じました。

【40代】

- ・昨年よりじっくりお話を聞くことができました。どうもありがとうございました。

- ・訪問介護の方の事例がとても良いお話でした。ヘルパーさんと利用者さんの関わり。徐々に心を通わせて、最期までご自宅で過ごされた A さん。「知らない人の中で死にたくない」とご自身の思いを伝えられたこと、その関係ができたのがとても良かったと思いました。
- ・事例を用いたそれぞれの専門職、実際のご家族の話は、とてもわかりやすく参考となりました。
- ・在宅診療、家族のサポートがあり、最良のラストを迎えられた良いケースばかりだったので、独居(サポートなし/キーパーソンなし)のケースも見てみたかった。
- ・芦田さんのご家族の肉声が聞けたのが良かったです。在宅療養に対する気持ちがリアルに伝わってきました。

【50 代】

- ・また参加して、学びを得たいです。ありがとうございました。
- ・本日のように色々な事例を聞いて知ること、地域で安心して過ごせることができるのだと思います。
- ・現在は、医療サービスを提供する側だが、今後の自分の人生の上で、どのようなサービスを受けていきたいかを考える良い機会となった。小原先生をはじめシンポジストの皆さま、お忙しい中、わかりやすい講演をありがとうございました。
- ・ケアに関わる方のご苦勞が分かり、健康を維持しようと思った。
- ・在宅療養について、色々なケースを知れて、とても参考になった。
- ・使えるサービスを知ること(情報収集)が必要だと思いました。

【60 代】

- ・在宅医療(介護)に置いては、外来、入院治療と違っていかに穏やかに安心して最期を迎えることができるか？そのためには地域包括ケアシステム、多職種連携が必須と思われます。まだまだ薬局薬剤師の在宅医療への関心が薄く、今後多職種連携などに積極的な薬局の参入を期待したいと思います。
- ・事例だけでなく、公の支援等の話も伺いたいと思いました。(手続き等)

【70 代】

- ・どの方のお話とても感動いたしました。
- ・このような機会を設けていただきありがとうございました。在宅療養の後の「死後手続き等」独居者の対応レクチャーも希望します。
- ・出席者の方々の双方向での話が聞きたかった。
- ・貴重なお話を伺いましてありがとうございました。
- ・色々な事例を伺うことで「在宅看護」や「看取り」がより身近に感じられました。
- ・色々な分野の専門家の協力が得られることがわかり安心感が増えました。
- ・事例などを伺うことができ、人間的なつながりや心配りを感じることができました。
- ・恵まれた事例の紹介が多く、それを可能にする世田谷区の現状が知りたかった。現実には往診医は少なく、ケアサービスも在宅で最期を迎えられるほどは受けられそうもなく、それらの充実を望むばかりです。
- ・どんな最期を自分は迎えたいのか、きちんと考えておこうと思った。

- ・今後の介護者人口を予測すると在宅療養を維持できるか不安です。
- ・どの方のお話もとても感動いたしました。
- ・音声の時折聞き取れず残念だった。

【80 代以上】

- ・地域の人々のつながりを強くすることが大切だと思う。
- ・82才独身。独居生活。現在は健康。今後、親族にどう迷惑をかけないで最期を迎えられるか？今後ケアマネジャーに相談することにします。
様々な事例を具体的にお話していただき、自分のこともじっくり考えたいと思いました。
- ・色々なケアが準備されていることを知った。
- ・音声の時折聞き取れず残念だった。資料を参考にします。
- ・小原先生の症例がとても参考になった。
- ・勉強になりました。